

登山月報



K12 (7,469m, 左) とサルトル回・カンリ (7,742m)



スポーツライミング 第2回スピードジャパンカップ	2
第2回 AvSAR 上級コース講習会報告	3
第137回 Mountain World	4
新連載 Enjoy Climbing	5
第10回 自然保護指導員研修会	6
令和2年度事業計画・収支予算	8
令和元年度全国理事長会議報告	12
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

スポーツクライミング 第2回スピードジャパンカップ

村岡正己

2月22日(土)、第2回スピードジャパンカップ(SJC)を昭島のモリパークアウトドアヴィレッジで開催した。昨年は、前日雪に見舞われ寒さの中の開催であったが、今年は春一番、強風の中での開催となった。

また、新型コロナウイルスにおいては国内の感染が拡大しており2月7日～8日に開催したBJC以上の感染対策を行った。会場入場者の全員の手のアルコール洗浄、スタッフのマスク装着を実施。



午前中、ジャパンツアーのスピードを行い、午後SJCを実施。天気予報通り南風が強くなり一次10m/sほどの強風が吹く。40分遅れての開始となる。

決勝ラウンドに入り、風は収まってきたがそれでも時折5～6 m/sの風が吹く状況。

そのような中、昨年優勝、予選1位通過の池田雄大が決勝1/8でフォールし敗退。女子でも野中生崩がスタートでスリップし3位決定戦へ。男子決勝では、榎崎智亜が上部でムーブに失敗し2位に終わる。結果、女子は8.99秒で伊藤ふたばが優勝、男子は6.73秒で土肥圭太が優勝となる。伊藤は先のBJC 2020でも優勝し、2020年ジャパンカップ2連覇で好調。

1/8決勝以降のタイムの平均値では

SJC 2019 男子7.959 女子13.44

SJC 2020 男子7.451 女子11.065

	優勝決定	三位決定	準決勝	1/4 決勝	1/8 決勝	予選	
土肥 圭太	6.734		6.813	6.855	7.193	7.554	11.664
榎崎 智亜	7.328		6.420	6.459	6.537	Fall	7.463
竹田 創		6.898	Fall	6.828	7.357	7.726	7.119
今泉 結太		7.012	7.187	7.299	7.340	7.439	7.966
抜井 亮瑛				6.947	7.276	7.275	7.163
榎崎 明智				7.053	7.206	7.135	7.774
清水 裕登				7.469	8.412	8.633	7.943
緒方 良行				9.148	7.330	7.007	8.190

	優勝決定	三位決定	準決勝	1/4 決勝	1/8 決勝	予選	
伊藤ふたば	8.993		9.116	9.531	11.179	9.321	8.983
倉 菜々子	9.157		9.806	9.899	10.242	11.686	10.120
野中 生萌		9.094	12.907	9.064	9.285	9.033	9.394
野口 啓代		9.704	9.709	10.019	10.206	10.421	10.205
中村 真緒				11.174	11.630	12.074	11.551
二宮 凜				11.496	11.799	12.036	11.498
菊地 咲希				11.758	12.122	12.217	11.992
青柳 未愛				12.025	12.078	12.136	12.687

男女ともに平均値が上がっており、スピードの競技能力も確実に上がってきていると感じる。

*風の考察

風荷重 $P = \text{風係数 } C \times \text{速度圧 } q \times \text{作用面積 } A$

で計算すると10m/sの風で約8 kgの力が横から加わる。実際これがどう影響するか現時点では明確に言えないが、左の写真で分かるように巻き上げが遅れるように見受けられる。



2台のカメラからのびるLANケーブル、電源ケーブルは足場上でまとめ、各1本にして地上へ降ろしました。





第2回 AvSAR上級コース講習会報告

遭対委員長 町田幸男

2月14日(金)～16日(日)群馬県みなかみ町土合山の家を起点にAvSAR上級コース講習会が実施された。日本雪崩捜索救助協議会(AvSAR:Avalanche Search and Rescue)はJAN、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、長野県山岳総合センター、日本山岳会、JMSCAの構成団体にて2017年に設立した協議会である。このコースは近年みられる大規模な雪崩遭難で多人数埋没に対応するためのプログラムで、現場に居合わせたメンバーをまとめ迅速な対応を行い、公的救助組織に手渡すことで救命率を上げることを目的としている。JMSCA遭対委員会から今回は井上、角田、安藤の3名に受講頂いた。以下のとおり、日本雪崩ネットワーク(JAN)の出川理事に概要を報告いただいた。

概 略: 本協議会が主催する第2回のAvSAR上級コースが、「土合山の家」及び周辺積雪地にて開催された。15名の受講生は山岳ガイドや山岳会リーダーを中心に、警察の救助隊員、一般山岳愛好家まで幅広いものとなった。

初日は雪崩ビーコン、プローブ、掘り出しに係る基本スキルの確認と高度な捜索方法について座学及び戸外で演習した後、室内にてICS(インシデント・コマンド・システム)の概念及びその雪崩現場への適応に係る講義が行われた。

2日目及び3日目は、マニュアルで規定されたインシデント・レベルを念頭に、対応が比較的易しいものから徐々に複雑になる状況シナリオが設定され、戸外で演習を行った。そしてその後、室内にてICSの概念に沿って演習の振り返り及び事例考察を行った。3日目の午後には知識の確認テストを実施し、総合的な質疑応答で講習を終了とした。

総 評: 前回の開催で問題となったビーコンを埋める作業に関して、bcaのビーコンパークを利用することで、労力の軽減だけでなく、シナリオの多様化および反復訓練が実施できた。これにより、多くの人が現場指揮者を繰り

返し経験することができ、大きな成果を挙げた。今後は、より段階的かつ多様なシナリオ設定の構築が重要であると思われる。

一方、現場マネジメントの視点でみた場合、生存救出できる者を優先的に助けるという大前提が崩れ、ビーコン捜索への固執、残留物に対する認識の甘さ、コミュニケーションの弱さなども露呈した。これは普段の訓練が、個々の技術スキルに焦点を当てたものに傾倒している弊害と思われる。本番をイメージして動くことが訓練には必要不可欠であるにも関わらず、一種のビーコン捜索ゴッコになっている者が散見された。

少雪の影響で2日目は天神平スキー場のロープウェイで上がり、天神尾根付近にてシナリオを実施した。深い埋没の捜索や実際のラインプロービングなどでは、十分な積雪があることが、講習には欠かせないことが痛感された。

謝 辞: 開催にあたり、宿泊施設への対応及び雪上演習で必要となる埋没物の設置など、非常に労力の掛かる作業に関して、日本山岳・スポーツクライミング協会、日本山岳会、長野県山岳総合センターから要員を派遣して頂くなど、多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

スタッフ: 出川あずさ・服巻辰則・町田幸男・町田雅美・宮下直人・松本善行・東秀訓・杉田浩康



第137回 Mountain World

新型コロナウイルスの脅威、世界に拡大中

池田常道

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の脅威が世界中で人々の生活を脅かしている。昨年末、中国・湖北省の武漢市に始まった流行は、ヨーロッパ、アメリカへと瞬く間に飛び火、各国はパニックに襲われた。3月22日に165ヶ国・地域で29万1420人に達した感染者は30日の時点で72万1584人に増加、3万958人(4.7%)が亡くなった。各国は門戸を閉ざして感染の流入を防ごうとしているが、グローバルな人の移動が常態化している現代の国際環境では対策は遅きに失し、流行は留まるところを知らない。以下は、3月31日時点で感染者の多い順に挙げたもの。()内は死者数と感染者に対する死亡率を示す。

アメリカ16万274人(3040人、1.9%)、イタリア10万1739人(1万1591人、11.4%)、香港とマカオを除いた中国8万2240人(3304人、4.0%)、スペイン8万7956人(7716人、8.8%)、ドイツ6万885人(645人、1.0%)、フランス4万5170人(3030人、6.7%)、イラン4万1495人(2757人、6.6%)。一方日本は、長期足止めされたクルーズ船の乗客712人を含めて2665人(67人、2.51%)。ただし、中国では発熱や咳など症状の出ない例は感染者に含めていないが、無症状の人でもウイルスをまき散らすことが分かったので、上記した数字の一部は修正の必要がある。

当然のことながら、個人的な旅行はもちろん、ビジネス目的の移動にも制限がかかり、中国、ネパール、インドの各国はこの春のヒマラヤ登山を全面的に禁止した。中国は3月11日にチベット域内の登山禁止を発表、ネパールも当初流行国からの入国禁止だった措置を登山禁止にまで引き上げた。またインドは、外国人の登山を全面禁止し、3月25日から3週間にわたって全土を封鎖すると発表した。

チベット域内の登山禁止が発表された時点で、ネパールは、日本を含む流行国からの入国を禁止すると決めていたが、中国にならって全面登山禁止に踏み切った。チベットを目標していたエベレスト公募隊がネパール側からの登山に切り替える動きを懸念したためである。春のエベレスト登山は、公募隊とそのシェルパにとって最大の収入源であり、死活問題でもあ

る。外国人を含まないネパールプロパーのチームには許可を与えてほしいという要望もある。ネパール登山協会サンタ・ビル・ラマ会長やカミ・リタら有力シェルパは、この機会を遺体収容やゴミ回収など、エベレストで積み残されてきた清掃に充てたらどうかと主張、これなら、シェルパらの雇用も確保されるとしている。

一方中国は、武漢市の閉鎖など、当初の出遅れをカバーした結果、感染の勢いは止まったとして、中国隊によるエベレスト登頂計画を公にした。5月25日は、60年前に中国隊が北方ルートから世界最高峰に登った記念すべき日にあたり、同時にコロナウイルスとの闘いに勝ったことを祝うという趣旨であろう。

ヒマラヤ遠征だけでなく、感染の危険が高い「3密」「接触」「閉鎖空間」のすべてに当てはまるクライミングジム、他人がさわったホールドに手を触れなければならないフリークライミングにも、避けるべき危険が指摘されている。多くのジムが休業に追い込まれたほかデナリ、ヨセミテなどの国立公園も閉鎖された。この夏の東京五輪・パラを初めとするメジャーなスポーツイベントも軒並み延期に追い込まれた。そんななか、総理大臣夫人が芸能人を招いて花見に現を抜かしているこの国。ほんとうに、これで大丈夫なのか。



足止めされた旅行者は昼食・夕食が無料。現金をお持ちの方は100ルピーで提供。カトマンズ市内にて

ミネラルキャニオン開拓記 その1

横山勝丘

ユタ州モアブでのクライミングと言えば、赤茶けた砂岩を思い浮かべる人は多いだろう。日本人にも有名なクラッククライミングの殿堂インディアンクリークはもとより、周囲にはキャスルトンタワーなどの印象的な岩峰が聳え、それを求めて世界中からクライマーが訪れる。私が初めてこの地を訪れたのは2009年、すぐに気に入った。この地にはその後、合計4度訪れ、そのクオリティの高い砂岩のクラッククライミングを堪能した。ある有名なアメリカ人クライマーがインディアンクリークを称してこう言ったのを覚えている。

「インディアンクリークは、

クラッククライミングのスポーツエリアだ」

いわく、整備されたルートと終了点、初心者でも容易に取れるプロテクション、完成度の高いルート図の存在、等々。つまりは、不確定要素を排して登る行為そのものに集中できるのだと。それが、雄大な大自然の風景と相まってこの地を世界的なクラッククライミングのメッカに押し上げた要因である。

それはまた、私がこれまで行ってきたような冒険的なクライミングとは対極の存在でもあった。しかし、少しでも長期でこの地に滞在すれば、周囲にはまだまだ手付かずの岩峰岩壁がひしめき合っていることなど一目瞭然であった。開拓好きの私の目は、少しずつ忘れ去られた岩場に向くようになっていった。

モアブ近郊でパタゴニア本社が主催するクライミングイベントに招かれたのが2017年秋。せっかくならばと帰国を延ばし、近くに住む友人と連絡を取ってイベントの後何日間か一緒に登ることにした。彼の名前はジェイ・スミス。40年以上世界各地でクライミングを実践してきたいわゆるレジェンドクライマーである。これまたレジェンドの一人、妻のキティ・キャルフーンとともに、モアブ、コロラドのヴェイル、ハワイにあるそれぞれの自宅、そして世界中の岩場と山を歩き来しながら生活している（なんてことだ！うらやましい）。当時、ジェイは御年64歳。しかしながら、その年はパキスタンまで遠征を行ない、年末にはメキシコでのクライミングを予定しているという。そして、少しでも時間ができればモアブ近郊における開拓を毎日のように



ミネラルキャニオン入り口からの光景

行っているようだ。

当初、私はインディアンクリーク辺りで一緒に楽しいクライミングができればくらいにしか考えていなかった。しかし、彼はこうやってきた。

「今開拓中の岩場があるんだ。キャニオン丸ごと全くの手つかず。一本素晴らしいクラックがあるんだが、肩を手術した直後の俺では手に負えない。お前やらないか？」

見せられた写真には、うっすらと被った砂岩の壁に細いクラックが一本ビシッと走っている。これを目にして、やらないという選択肢はあり得ない。ぜひ！というわけで私たちは意気揚々とその場所に向かったのであった。

モアブから北西に50キロ。その名の通りミネラルキャニオンは、かつては炭鉱として開拓された土地である。ウラニウムの採掘が主であつたらしく、原子力産業が活発であつた頃に栄えたようだ。所々当時の面影を残す廃墟や朽ちた車の残骸を横目にダートの道をゆくと、兩岸には高差100メートルほどの岩壁が迫ってくる。それがキャニオンの遥か奥まで続いている。目算では奥行き10キロ近くあるだろう。ジェイによれば、このような手つかずのキャニオンはこのユタ全土にいくらかでも転がっているという。

確かに、すぐそばを流れるグリーン川周辺にも涎が出そうな赤茶けた岩壁がゴロゴロしていたし、グリーン川はこのすぐ先で、グランドキャニオンで有名なコロラド川に合流する。つまりは、ここからまだ数千キロもの間、こんな光景が続くということだ。日本人クライマーにしてみれば、ユタの砂岩と言えばインディアンクリークかザイオンくらいしか思い浮かばないのが関の山であるけれど、それはまさに井の中の蛙。日本との明らかなフィールドのレベルの差を見せつけられた。

30分のアプローチをこなして目にしたその岩壁、そ

第10回 自然保護指導員研修会・公開講演報告

してジェイから渡されたプロジェクトは、まさに私を夢中にさせた。それからの数日間、私は毎日そのクラックと格闘した。全長45メートル、最大傾斜100度。最初の10メートルは比較的簡単な浅いコーナーで5.11程度。大きなガバクラックでのレストのあと、核心の20メートルが始まる。指先しかかからない細いクラックのレイバックから、クラックは徐々に広がってゆく。指は入るようになるが、傾斜は強くクラック以外に拾える足は少ない。クラック内は花崗岩のように結晶もなく、的確なジャミングを要求される。何度やってもねじ込んだはずの指が吐き出され、私は虚しくロープにぶら下がる。パンプした前腕に、その後の被ったレイバックの5メートルは辛い。おそらくこの部分が、レッドポイントの核心になるだろう。その先、ルートは若干傾斜が緩くなるが、我慢のジャミングが15メートル続く。ルートを通してのグレードは5.13+とといったところだろう。

結局、一週間ワークしても完登はおろかそれを実現するイメージも立てられずに帰国することとなった。完全な力不足であった。しかし、私の心の中は悔しいという思いよりも興奮でいっぱいであった。尊敬するジェイからのギフトを、なんとしてでも自分自身の力でルートとして完成させたい！私はこの地への再訪を固く心に誓ったのであった。(つづく)

横山 勝丘 (Yokoyama Katsutaka) 氏プロフィール

1979年4月5日、神奈川県相模原市に生まれる。
1998年、信州大学理学部入学と同時に信州大学学士山岳会に入会。学生時代にエル・キャピタン、ヨーロッパアルプス、冬壁、各地の岩場の開拓を山岳会のメンバーとともに経験する。
2005年のアラスカで、海外登山を中心に据えた生活に目覚める。以来、アラスカ、アンデス、ヒマラヤ、パタゴニアなどに足を運ぶ。それと並行して、北米やヨーロッパのフリークライミングツアー、辺境の地での岩場開拓にも精を出す。
2010年、北米大陸第2位の高峰・マウント・ローガン南東壁「糸 (ED+ M6 WI5)」初登、(2011年「ピオレドール賞」受賞。)
デナリの南バットレスのアイシス・フェース～南壁のスロヴァク・ダイレクトの8日間にわたる継続登攀。2017年、K7 西峰南西稜 初登攀など。



石井誠治氏公開講演

令和2年1月25日13:30～16:30、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、関東地区から71名を集め、第10回自然保護指導員研修会・公開講演を開催したので概要を以下に報告する。

冒頭、岡田博行都岳連自然保護委員長から主管者挨拶があり、次いで、松隈豊委員長から主催者挨拶を兼ね自然保護指導員制度について説明を行った。そのあと団体自然保護委員会としての環境活動の状況を、栃木(江崎裕之委員長)、埼玉(増田修委員長)、千葉(濱田伸委員長)、東京(阿部幸子委員)、神奈川(松隈豊委員長)のJMSCA加盟団体から、次いで奥多摩小屋の現状について小高令子委員から、自然保護指導員の立場から活動概況について都岳連所属の武田耕治指導員からそれぞれ報告を行った。一段落の休憩の後、「木を知る・木に学ぶ」を演題に、樹木医の石井誠治氏から1時間ほどの講演を公開にて行った。講演の概要を次に記す。

(石井誠治氏公開講演の要約)

年号が令和になって初めての正月をつい最近迎えたという事で、おめでたい「榊(本榊)」の小枝を手に取り、古くから日本の文化の中心としてあった京都に生える暖温帯樹木の「常緑樹」である「榊」の話から講演を切り出した。

「榊」は祭禮に用いられる見慣れた樹木の一つであるが、樹木に関心を持つには、「普通に見慣れたところ」に関心を持つことが肝心である。「榊」の小枝を見ていただくと先端近くの枝につく葉の葉柄の付け根に「嘴」のような芽がついている。その芽は次の年の枝と成長していくわけである。

「常緑樹」も落葉をするわけで、3年ほどで葉が取れる。「嘴」のような芽から枝の付け根の方向に辿ると「嘴」の芽が無くなるがその箇所が前年に芽から育った箇所ということです。常緑樹だから落葉しないということではありません、葉は展葉してから大体3年で落葉をします。桜などの「落葉広葉樹」は葉がついている期間は半年ほどで、それは気候に関係します。葉が低温、特に凍結に弱く、また気孔があるため乾燥にも弱いことから、「落葉樹」は、冷温帯にあって、冬の気候から身を護るため、落葉をします。

今日の話の「栗」は「ブナ科クリ属」に分類され落葉広葉樹です。関西で生えている「カシ」は分類学的には「ブナ科コナラ属」ですが常緑樹です。関東でも低山でよく目にしますコナラやクヌギは「ブナ科」ですが落葉広葉樹です。ちなみに、日本で一番大きなドングリを付

けるはオキナワウラジロガシという常緑樹です。欧州などでオークと呼ばれる樹種ですが日本語訳では「カシ」が一般的ですが、都内の半蔵門近くにある英国大使館の前の公園にはイングリッシュオークが植樹されており、この季節ですと落葉しています。

分類学的には仲間でも生える場所の気候によっても異なった種類となるというものです。

次に本題の「木は動かない」の話に移って行きます。木の幹を見てみます（見本にキハダの輪切りを示しながら）。縦に裂ける樹皮はコルク質が厚く弾力があり、これを削ると鮮やかな黄色の内皮が現れる。その黄色い部分は生きた部分でベルベリンという成分を含み、胃腸薬や消毒薬リバガーゼの原料となる。その内側の茶色いところは心材と呼ばれ、白っぽいところを辺材と言います。黄色い内側の木部には導管細胞があって生成される傍から死滅していくとともに心材に向かって老廃物抗菌物質を送り込んで行きます。木が年数を経て太くなると、中心部は導管として不要になってくる。不要になった部分では、材の中に抗菌物質を詰め込んで生命活動としての物質の分泌は停止してしまふ。それで一般的に心材は色が濃くなる。同時に死んだ細胞と言われている。中心にある空洞は腐朽菌が入り込んで分解してできたもので、その周囲を取り囲むようにある黒い部分はタンニンなどの抗菌物質の痕。内皮のことを師部と呼び葉で作ったエネルギーを根に送り成長します。根の太い部分からは水を吸い上げるわけではなく、根の先端の白い部分が水を吸い上げる働きをします。根の太い部分は木を支えるのが役割です。

さて、同じブナ科の樹木でコナラ属にはいっぱい種類がありますが、クリ属にはクリしかありません。クリは耐水性に富み、土台材や線路の枕木として供される。日本人はクリに頼って生きてきた。三大丸山遺跡の発掘からクリの栽培跡や直径1m余のクリ巨木の柱も出土している。日本の文化はクリとともに膨らんできた。日本のクリはうまくいくと毬（イガ）の中に堅果が3個入っています。独特の臭気を放つクリの雄花ですが、長い花穂に密に咲いて、その基部に数個の雌花が付いています。クリは他家受粉し、他者（昆虫・鳥・風・水など）に手伝ってもらうため受粉確率から3個が結実するとは限りません。あの独特の異臭は虫を呼ぶためのものです。他のブナ科の樹木は無臭で全くの風媒で、クリの臭媒とは異なります。クリの雄花からは蜜も出ます。

では小野のシダレグリ群落の話に致します。ただ枝垂れということシダレザクラやヤナギを思い浮かべますが、長野県上伊那郡辰野町の小野地区に群生している奇形

変種クリは曲がりくねった奇怪な樹形をしています。枝垂れはホルモン異常に原因し、どの樹種にでも発生します。枝がしっかり固まらないうちに伸びてしまうことから起きます。小野の木は、枝垂れた長い枝が途中で枯れ落ち、残った生きた枝の芽から長枝が出て、またそれが途中で枯れと落枝と萌芽を繰り返して、ジグザグに曲がった枝振りになる変異が加わっているのです。木々は陽光を求めて天へ枝を広げて生育して行く訳ですから、その逆となる枝垂れは不利となり、その分だけ人の助けを必要とするものです。小野には1000本近い群落となって居ます。この群落は室町時代から伝統で受け継がれ地元の人たちが下草刈りを行うなど管理をし続けた結果出来上がったものです。枝垂れは劣勢遺伝なのですが、この地域ではどの実生の幼木もまるで優勢遺伝のように育っています。懐かしい光景が広がるのは昔から変わらぬ自然の光景の維持管理をして来たからです。

1920年7月17日に国の天然記念物に指定されました。近くには旧中山道が通り人々の往来が常にあったことから、シダレグリの自生地は古くから人々に知られていたと言います。

最後に、今日は、難しい草木の話をしてきましたが、みなさんが一般の方に自然解説をする機会があった時には、そんなに難しい話をする必要は全くありません。誰もが知っているスギやヒノキにも沢山の話しがあります。知っていることを共通項にすれば良いのです。このことを、今後の活動の役立てて頂ければと思います。

（文責 自然保護委員長 松隈 豊）



山岳共済会優待施設のお知らせ

山岳共済会々員向けの優待施設が新たに2軒加わりましたので、是非、ご利用ください。

「ペンションいぶき」

滋賀県米原市上野983-1（伊吹山登山口）

「孀恋の宿あいさい」

群馬県吾妻郡孀恋村千俣2401

詳細は、HPをご覧ください。

<https://www.jma-sangaku.or.jp/hoken/?ca=4>

令和2年度事業計画

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

① 第64回全国高等学校登山大会(群馬大会)の開催
8/20(木)～24(月) みなかみ町、片品村、上州武尊・尾瀬周辺

② 第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催 12/26(土)～27(日) 加須市市民体育館
イ) ジュニア登山教室

① 「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

② 「ジュニア普及情報交換会」開催

2021年2/13(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・2020年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰
- ・第59回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者)及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈
- ・2020年度永年参与感謝状贈呈
- ・特別功労者表彰(創立60周年記念式典)
- ・第10回日本山岳グランプリの公募と顕彰
- ・2020年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦
- ・2020年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦
- ・2020年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦
- ・2022年度叙勲及び褒章候補者の推薦

エ) 2020年度海外登山隊奨励金の公募と選考

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援

カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業

ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所共催)の実施

① 東部地区(福井県) 9/19(土)～21(祝)月
「福井県立奥越青少年自然の家」、経ヶ岳(1,625m)周辺

② 西部地区(香川県) 11/21(土)～23(祝)月
「香川県立五色台少年自然センター」、五色台周辺

イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)の実施

① 高等学校等登山指導者夏山講習会

7/10(金)～12(日) 国立登山研修所及び室堂周辺

② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会

2021年1/30(土)～31(日) J S C 関連施設

③ 安全登山サテライトセミナー

宮城会場: 6/20(土)～21(日)(200人規模の施設を想定)

兵庫会場: 10月下旬～11月上旬(200人規模の施設を想定)

東京会場: 12/19(日)～20(日)(300人規模の施設を想定)

④ 積雪期登山基礎講習会

2021年2/12(金)～14(日) 国立登山研修所及び周辺山域

ウ) 創立60周年記念・第59回全日本登山大会の開催

2021年2/20(土)～22(月) 千葉県房総

< 遭対委員会 >

ア) 山岳レスキュー講習会

① 西部地区(富山県・国立登山研修所) 9/11(金)～13(日)

② 東部地区(群馬県・土合山の家) 1/29(金)～31(日)

イ) 研修及び研究会

① 遭対常任研修会 8/22(土)～23(日)、12/19(土)～20(日)

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6/27(土)～28(日)

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動

・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ!」の拡散

エ) 平成20年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他)

オ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/H P 掲載)

カ) 遭難事故の調査研究

・遭難事故に関する調査研究(委託事業)

・遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究・他支援

・I M S A R 研究助成支援(継続)

・内閣府「噴火時等の避難計画手引き」作成協力(継続)

< 国際・アルパインクライミング委員会 >

ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議(仮称)兼

第59回海外登山技術研究会 6/27(土)～28(日) 福井県

イ) 海外登山懇談会

11月 国立オリンピック記念青少年総合センター

ウ) 共催事業

ウィンター・クライマーズ・ミート(国内)の共催

(4) 登山指導者育成事業

ア) 指導員研修会

① 登攀技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会)
10/24(土)～25(日) (一社)広島県山岳・SC連盟 福山

② 氷雪技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会)
2021年2/13(土)～14(日) 鳥取・大山

③ コーチ1, 2、主任検定員の養成

④ 指導・遭対委合同研修会 年3回程度

イ) 主任検定員養成講習会

・山岳主任検定員養成講習会(未定)

2. スポーツライミング事業

(1) 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

① 第33回リードジャパンカップ(延期)

② 第8回リードユース日本選手権(延期)

③ ボルダリングユース日本選手権鳥取大会(延期)

④ 第3回コンバインドジャパンカップ(延期)

⑤ 第23回JOCジュニアオリンピックカップ(ユースC)
9/19(土)～20(日) 茨城・鉾田市 or 東京・葛飾区

⑥ 第11回全国高等学校選抜スポーツライミング選手権大会(「青少年育成事業」の項参照)

⑦ 第16回ボルダリングジャパンカップ

2021年1/23(土)～24(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

⑧ 第3回スピードジャパンカップ

2021年3/6(土)～7(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ(検討中)

⑨ 第34回 リードジャパンカップ2021

2021年2/6(土)～7(日) 印西市・松山下公園総合体育館

⑩ 第9回リードユース日本選手権印西大会2021

2021年3/27(土)～28(日) 印西市・松山下公園総合体育館

(2) 国体スポーツライミング競技の主管

ア) ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

イ) 国体スポーツライミング競技

① 4/18(土)～19(日) 第75回鹿児島国体第1回基準会議、鹿児島県南さつま市(中止)

② 6/12(金)～14(日) 第75回鹿児島国体第2回基準会議、鹿児島県南さつま市

③ 6/13(土)～14(日) 第75回鹿児島国体リハーサル大会(第7回日本学生スポーツライミング(L/B)対抗選手権大会) 鹿児島県南さつま市

④ 9/6(日) 組合せ抽選会 場所、JSOSビル

⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)

⑥ 10/4(日)～6(火) 第75回鹿児島国体スポーツライミング競技、鹿児島県南さつま市

⑦ 第75回鹿児島国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

① 代表(S、A、B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

① IFSCクライミングWC 4月～11月 世界各地

② 第32回夏季オリンピック大会(延期)

③ IFSC世界ユース選手権 8/23(日)～31(月) ロシア

④ IFSCアジア選手権 コンバインド(未定)

⑤ IFSCアジアユース選手権 単種目(未定) コンバインド(未定)

エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防啓発(医科学支援)

キ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード)への取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業

ア) 審判・セッター会議の開催(2月)全国ルートセッター研修会

イ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会

(5) SCコーチ養成講習会

① SCコーチ1,2養成習会 年2回

② SCコーチ3養成会(補講) 関東地区 年1回

③ SC主任検定員

④ SCコーチ養成用教材作成(医学と法律)

(6) スポーツライミング医・科学事業

ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

イ) 代表選手メディカルチェック事業

ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

① 登録選手向け医科学講習会 2回

② クライミング医科学講習会

エ) 調査、研究事業

① 障害実態調査

② 学会活動(日本臨床スポーツ医学会ほか)

オ) JSPO公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席)

(7) ドーピング防止事業

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施(JADAに委託)

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援

④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(8) 倫理研修会事業

AD・倫理研修会の開催(随時)

(9) ユニバーシアード関連

JOC主催委員会等出席

3. 登山関連・競技会運営事業

(1)山岳スキー、スカイ/トレラン普及・振興

- ① 第14回日本山岳スキー競技選手権大会(延期)
- ② ISMF(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援
- ③ (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化

4. 登山研究調査事業

(1)国際交流事業

ア)国際交流

- ① 創立60周年記念事業「国際青少年自然環境体験キャンプ」(HAT-J共催) 多摩地区・高尾山他
7/28(火)～8/1(土)

イ)派遣他

- ① 創立60周年記念事業「クープ山群絶景トレッキング」
ネパール・コンデリゾート 10/16(金)～10/28(水)
- ② BMC International Climbers Meet への派遣(夏)
- ③ UIAAアイスクライミング選手権派遣支援

(2)医・科学支援事業

ア)UIAA MedCom Meetingへの出席

イ)支援している医科学的諸事業

- ① JSMM国際認定山岳医研修会
- ② NPO富士山測候所を活用する会
- ③ JSMM登山者検診ネットワーク
- ④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

5. 自然保護研究調査事業

(1)山岳環境保全事業

ア)研修及び研究会

- ① 令和2年度自然保護委員総会(第44回山岳自然の集い)
11/7(土)～8(日)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ② 山岳自然保護環境研究会パート1 6月中旬 三つ峠
- ③ 山岳自然保護環境研究会パート2
9月中旬 武甲山(鉦山視察)
- ④ 第11回自然保護指導員研修会
2021年1月
国立オリンピック記念青少年総合センター

イ)自然保護の啓発

- ① 自然保護指導員制度の推進
- ② 自然保護広報資料の出版
- ③ 全国環境月間(6月)の実施
- ④ 環境省・自然公園指導員制度への協力
- ⑤ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
- ⑥ JOC主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

- ⑦ 全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

6. 共益事業

(1)広報等

ア)『登山月報』毎月15日定期発行

第613号(4月号)～第624号(3月号)

イ)HPのタイムリーな更新作成

①英文コーナーの新設

ウ)創立60周年記念誌の発行

エ)創立60周年記念事業「UIAAハンドブック」翻訳本の刊行

(2)会議等

ア)総会 6/21(日)

イ)理事会 原則として毎月第二木曜日

ウ)全国理事長会議 2021年2/14(日)

エ)全国参加会 2021年2/20(土)

千葉県(第59回全日本登山大会開催時)

オ)常務理事会 原則として毎月第二木曜日

キ)委員長会議

ク)常任委員会 毎月1回以上開催

ケ)事務局会議(随時)

コ)創立60周年記念式典・祝賀会 2021年1/16(土) アルカディア市ヶ谷

サ)山岳4団体懇談会 7月(未定)

シ)(一財)全国山の日協議会(随時)

・評議員会・理事会・運営委員会への出席

・第5回「山の日」記念全国大会 8/11(火)

大分県 くじゅう地域(九重町、竹田市)

ス)国際会議

①国際山岳連盟(UIAA)理事会(出席せず)

②国際山岳連盟(UIAA)総会 11月初旬 トルコ

③アジア山岳連盟(UAAA)理事会 6/19(金) 東京

④アジア山岳連盟(UAAA)総会 10月 香港

⑤国際山岳連盟登山部会 4/18(土)～19(日) カナダ (中止)

⑥国際スポーツクライミング連盟(IFSC)総会 11/13(金)～14(土)

⑦国際スキー連盟(ISMF)総会 6月

(3)総務等

ア)令和2年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行

イ)議事録の整備

ウ)創立60周年記念事業の実施

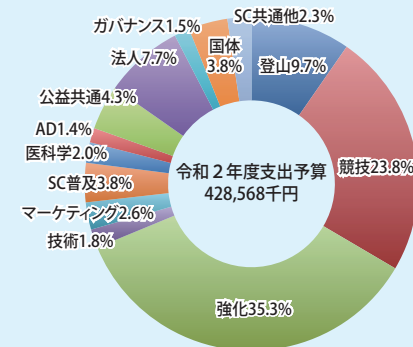
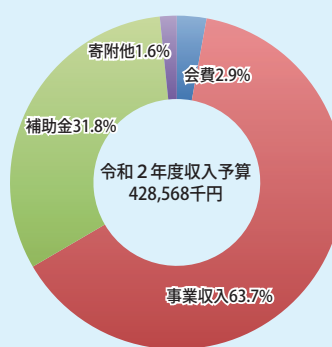
エ)スポーツ団体ガバナンスコードに対処する中長期計画の作成

[収支予算内訳] 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科目	登山部計	SC部計	その他計	公益計	法人	合計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益				0	0	0
特定資産運用益				1,000	1,000	1,000
受取会費				12,270,000	12,270,000	12,270,000
正会員受取会費				2,670,000	2,670,000	2,670,000
加盟分担金受取会費				8,000,000	8,000,000	8,000,000
賛助会員受取会費(個人・団体)				1,600,000	1,600,000	1,600,000
事業収益	36,511,000	189,655,000	26,248,000	252,414,000	20,659,000	273,073,000
共済会委託事業収入	29,364,000	0	10,527,000	39,891,000	2,609,000	42,500,000
登録料	0	2,596,000	0	2,596,000	13,600,000	16,196,000
競技選手登録料	0	2,596,000	0	2,596,000	12,000,000	14,596,000
諸登録料	0	0	0	0	1,600,000	1,600,000
参加者負担金	5,769,000	2,593,000	1,700,000	10,062,000	0	10,062,000
講習会参加料	5,187,000	2,593,000	500,000	8,280,000	0	8,280,000
諸参加料	582,000	0	1,200,000	1,782,000	0	1,782,000
協賛金	550,000	155,179,000	10,271,000	166,000,000	3,400,000	169,400,000
広告料	0	0	3,000,000	3,000,000	50,000	3,050,000
競技会収入	824,000	27,688,000	0	28,512,000	0	28,512,000
選手参加料	824,000	17,338,000	0	18,162,000	0	18,162,000
入場料	0	9,000,000	0	9,000,000	0	9,000,000
諸収入	0	1,350,000	0	1,350,000	0	1,350,000
その他事業収益	4,000	1,599,000	750,000	2,353,000	1,000,000	3,353,000
受取委託金	2,000,000	19,991,000	0	21,991,000	0	21,991,000
日本スポーツ振興センター委託金-1	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
日本スポーツ振興センター委託金-2	0	19,991,000	0	19,991,000	0	19,991,000
受取補助金等	2,900,000	108,500,000	1,620,000	113,020,000	0	113,020,000
日本オリンピック委員会助成金	0	84,600,000	0	84,600,000	0	84,600,000
国民体育大会補助金	0	7,900,000	0	7,900,000	0	7,900,000
日本スポーツ協会助成金	1,200,000	0	0	1,200,000	0	1,200,000
日本スポーツ振興くじ助成金	1,700,000	0	1,620,000	3,320,000	0	3,320,000
日本スポーツ振興基金助成金	0	16,000,000	0	16,000,000	0	16,000,000
受取負担金	0	2,200,000	0	2,200,000	0	2,200,000
受取負担金等	0	2,200,000	0	2,200,000	0	2,200,000
受取寄附金等	0	3,000,000	3,000,000	6,000,000	0	6,000,000
受取寄附金	0	3,000,000	3,000,000	6,000,000	0	6,000,000
雑収益	0	0	0	0	13,000	13,000
受取利息	0	0	0	0	3,000	3,000
雑収入	0	0	0	0	10,000	10,000
経常収益計	41,411,000	323,346,000	30,868,000	395,625,000	32,943,000	428,568,000
(2) 経常費用						
事業費	41,411,000	323,346,000	29,878,000	394,635,000	0	394,635,000
給料手当	5,496,000	18,360,000	3,400,000	27,256,000	0	27,256,000
臨時雇賃金	0	1,992,000	0	1,992,000	0	1,992,000
通勤費	300,000	1,020,000	180,000	1,500,000	0	1,500,000
退職給付費用	120,000	555,000	63,000	738,000	0	738,000
賞与引当金繰入	420,000	1,527,000	221,000	2,168,000	0	2,168,000
福利厚生費	640,000	2,326,000	336,000	3,302,000	0	3,302,000
会議費	693,000	1,870,000	2,470,000	5,033,000	0	5,033,000
旅費交通費	16,738,000	117,807,000	4,171,000	138,716,000	0	138,716,000
通信運搬費	255,000	3,250,000	1,440,000	4,945,000	0	4,945,000
減価償却費	72,000	263,000	38,000	373,000	0	373,000
消耗品費	787,000	1,675,000	80,000	2,542,000	0	2,542,000
印刷製本費	1,216,000	8,932,000	9,220,000	19,368,000	0	19,368,000
光熱水料費	32,000	247,000	17,000	296,000	0	296,000
賃借・リース料	1,745,000	22,138,000	745,000	24,628,000	0	24,628,000
保険料	699,000	3,462,000	252,000	4,413,000	0	4,413,000
諸謝金	3,926,000	38,581,000	2,820,000	45,327,000	0	45,327,000
大会施設費用	313,440	16,401,000	300,000	17,014,440	0	17,014,440
支払負担金	472,000	7,021,000	1,610,000	9,103,000	0	9,103,000
支払助成金及び事業交付金	200,000	2,960,000	0	3,160,000	0	3,160,000
委託費	4,440,000	41,554,000	1,500,000	47,494,000	0	47,494,000
租税公課	900,000	3,271,000	471,000	4,642,000	0	4,642,000
参加登録料	0	0	0	0	0	0
現地サポート費用	0	7,930,000	0	7,930,000	0	7,930,000
大会記念品費	10,000	298,000	400,000	708,000	0	708,000
大会賞金	0	1,440,000	0	1,440,000	0	1,440,000
報奨・奨励金	1,500,000	12,700,000	0	14,200,000	0	14,200,000
IT関連費	88,000	582,000	84,000	754,000	0	754,000
雑費	348,560	5,184,000	60,000	5,592,560	0	5,592,560
管理費	0	0	990,000	990,000	32,943,000	33,933,000
役員報酬	0	0	0	0	200,000	200,000
給料手当	0	0	0	0	2,800,000	2,800,000
通勤費	0	0	0	0	137,000	137,000
退職給付費用	0	0	0	0	60,000	60,000
賞与引当金繰入	0	0	0	0	209,000	209,000
福利厚生費	0	0	0	0	281,000	281,000
会議費	0	0	0	0	2,800,000	2,800,000
旅費交通費	0	0	0	0	7,500,000	7,500,000
通信運搬費	0	0	0	0	71,000	71,000
減価償却費	0	0	0	0	43,000	43,000
消耗什器備品費	0	0	0	0	1,350,000	1,350,000
消耗品費	0	0	0	0	91,000	91,000
印刷製本費	0	0	0	0	1,100,000	1,100,000
光熱水料費	0	0	0	0	17,000	17,000
賃借・リース料	0	0	0	0	280,000	280,000
支払会費	0	0	0	0	2,300,000	2,300,000
保険料	0	0	0	0	64,000	64,000
租税公課	0	0	0	0	695,000	695,000
支払負担金及び還付金	0	0	0	0	3,800,000	3,800,000
交際費	0	0	0	0	300,000	300,000
支払利息	0	0	0	0	550,000	550,000
支払報酬	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
手数料	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
IT関連	0	0	990,000	990,000	80,000	1,070,000
60周年事業引当金繰入	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	5,015,000	5,015,000
経常費用計	41,411,000	323,346,000	30,868,000	395,625,000	32,943,000	428,568,000
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0

収入予算

会費	12,270
事業収入	273,073
補助金	136,211
寄附他	7,014



支出予算

登山	41,411
競技	102,000
強化	151,312
技術	7,735
マーケティング	11,320
SC普及	16,312
医科学	8,511
AD	6,031
公益共通	18,477
法人	32,943
ガバナンス	6,360
国体	16,234
SC共通他	9,922

単位：千円

令和元年度全国理事長会議報告

2月16日(日)に都内のTKP渋谷カンファレンスセンターに於いて令和元年度全国理事長会議が開催された。会議には役員・委員長32名、加盟団体理事長(代理を含む)43名が出席した。

開会に先立ち、八木原会長から「世の中のIT革命の進歩についていけないほど、登山界を取り巻く環境も激変している。今年度の事業では、世界選手権で大幅な赤字を出してしまった。本来なら会長職を辞して責任を取らなければならないところだが、それでは余りにも無責任と誹りを受けるので、きちんと責任をもって対処に当たりたい。」と挨拶された。

次に以下の事項が報告された。

1. 令和元年度事業の経過報告について

小野寺事務局長の報告の後、亀山財政再建諮問委員長から世界選手権の検証中間報告の説明があった。

2. 令和元年度決算見通しについて

相良財政委員長から上期決算について△3380万円の経常損益額が報告された。

3. 令和2年度事業計画(案)について

小野寺事務局長から事業計画案が説明された。

4. 令和2年度収支予算(案)について

予算編成中で未だ報告が出来ないが、予算規模としては約4億2千万円との報告があった。

5. オリンピック選手選考について

合田常務理事からCAS(スポーツ仲裁裁判所)への提訴経緯と現状の進捗について報告があった。

6. 日山協山岳共済会の令和元年度事業・収支経過報告及び令和2年度事業計画・収支予算(案)について

尾形共済会会長から資料に基づいて報告があった。

7. 内閣府立入検査報告について

小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。

8. 諸般の報告について

①国民体育大会競技施設認定規定改正について

②アスリートパスウェイについて

③組織管理運営規程の一部改定について

④『高山病と関連疾患の診療ガイドライン』の配付について

⑤第58回全日本登山大会報告書について

⑥創立60周年記念事業ネパール・コンデリゾート・トレッキングについて

質疑応答では、選手登録に関してのAD研修及び倫理研修について。競技審判員・ルートセッターの更新研修について。コーチ資格の更新研修について、加盟団体の法人化について、JMSCAの事業計画と予算管理について、加盟団体のガバナンスコードについて、登山ガイド制度の新設について、登山者のための山岳共済制度について、自然保護委員会の活動について、岩場へのアクセス問題について、などの質疑があった。



令和元年度
第11回理事会報告

日時 令和2年3月5日(木)

14:10~17:10

場所 Japan Sport Olympic Square
3階8号会議室

出席者 八木原会長、亀山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村上、山口、水村、前田、六角、唐木、古賀、山本、古林各理事、中島、古屋各監事

欠席者 平山副会長、小日向(テストイベント準備)、村岡、安藤各理事

1. 開会

会長挨拶後、会議成立状況が報告され、理事23名中19名出席、監事2名同席で会議成立。続いて議長を選出し、議事録署名人を指名して議事に入った。

2. 議事

(1)議案第1号 議事録の承認について

①第10回理事会議事録の承認について(事

前送付済)

②全国理事長会議の議事録承認について(事前送付済)以上、異議なく承認された。

(2)議案第2号 令和2(2020)年度事業計画案について

新型コロナウイルスの感染拡大により、年度初めの事業が延期・中止になりそうだが、提案通り承認された。

(3)議案第3号 令和2(2020)年度収支予算案について

尾形専務理事と相良理事から収支予算案の提案説明があり、その後、予算管理と執行について種々議論が交わされた。高校選抜スポーツクライミング選手権と指導委員会の一部予算修正の上、提案通り承認された。

(4)議案第4号 公認コーチの認定について

a. 山岳コーチ2

①市川剛 ②島添誠(以上、大阪)

①野崎雅之(岐阜)

b. 山岳コーチ1

①河面信也 ②中垣徹 ③谷池紀美子

④古谷赴夫(以上、大阪)

①稲福恵美子②久保まどか(以上、神奈川県)

①橋川亨 ②鈴木絵美子 ③橋川弘子

④長谷川善一 ⑤東明裕 ⑥梅田直美

⑦草川明 ⑧木村誠 ⑨稲垣吉昭

(以上、三重)

c. 主任検定員更新

①渡辺公二(鳥取) ②寺崎良夫(福岡)以上、一部訂正の上、承認された。

(5)議案5号 夏山リーダー制度とUIAA認定について

議案第2号の決議に則り、積極的に準備を進めていくことになり、追加予算は120万円計上で、承認された。

3. 報告

(1)報告第1号 令和元年度第2次補正予算について

強化委員会の自費参加選手の旅費交通費を収支から外す。アスリートパスウェイの助成事業を追加。LYCの延期に伴い、今年度予算から削除。LYCの協賛金は世界選手権に振替などの補正予算が報告された。

(2)報告第2号 LJC/LYC大会、延期について

(3)報告第3号 2月月末決算報告

2月末経常増減額 △24,156千円。

(4)報告第4号 CAS仲裁上訴の経緯・現状について

(5)報告第5号 世界選手権検証経過報告について

(6)報告第6号 「ストップ・ザ1000!!」登山

- 部報告について
Google Displayの配信結果について報告があった。
- (7)報告第7号 SJC、BJC報告について
(8)報告第8号 アイスクライミング競技の打ち合わせ経過について
(9)報告第9号 共催名義承認について
国際青少年自然環境体験キャンプ2020 in 東京 (HAT-J)
(10)報告第10号 後援名義使用申請
①「東北の高校生富士登山」(継続)
②「山岳検定協会」(継続)
(11)報告第11号 日山協山岳共済会令和2年度事業計画及び収支予算について
(12)報告第12号 業務執行理事の職務執行報告
各業務執行理事より10月～1月の業務執行が報告された。
(13)報告第13号 役員派遣について
(3月6日～4月8日)
①オリンピックテストイベント
3月6日(金)～7日(土)
於：青海アーバンスポーツパーク
村岡、小日向理事、安井強化委員長他
②スポーツ安全協会評議員会
3月19日(木) 於：東海大校友館霞が関ビル35F 尾形専務理事
③第3回CJC実行委員会
3月25日(水) 於：盛岡市 村岡理事
④FISE(中止) 4月3日(金)～5日(日)
於：広島市・旧市民球場跡地
八木原会長、村岡、小日向理事
⑤第14回日本山岳スキー競技選手権大会(中止) 4月4日(土)～5日(日)
於：栂池高原スキー場
丸副会長、唐木理事、笹生委員長

4. 専門委員会報告(抄録)

4-1. 2月登山普及委員会

- 2月10日(月) 出席者 3名
1)「登山普及情報交換会」について
2月15日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟107号室、情報交換会27名、懇親会22名、宿泊15

- 名
イ)「那須甲子雪あそび隊」について
10日現在申込3名、問合せ2名。
- #### 4-2. 強化委員会
- 2月7日(金) 出席6名
1)協議
①スピード公認記録会について
・第1期JMSCAパリオリンピックスピード選手の育成を目的とする。
②日本代表及びユース日本代表選考について
・2020年アジア選手権選手選考基準(CASの結果待ち)
・2020年コンバインドジャパンカップ参加資格について
・2020年アジアユース選手権大会選手選考基準について
③東京オリンピック選考について(CAS問題と今後の想定)
・東京2020オリンピックの準備について
・3月6日～7日 テストイベントのヴェニューツアーの参加者について
④BMI問題、リスクマネジメントについて
⑤パリオリンピックへ向けて(強化戦略プラン)
⑥2021年以降の日本代表チーム再編成について
・2020年9月～12月 最終検討開始
⑦ユース日本選手権での講習会の実施について(印西・倉吉)
⑧その他
・東京オリンピック使用ホール発表
・東京オリンピックオフィシャル発表、2020年主要大会オフィシャル発表
2)報告
1 2019年12月以降の強化活動の報告
・オリンピック強化選手(インスブルック合宿)
・ユース日本代表選手(フランスパリ合宿)
2 第5期オリンピック強化選手の強化練習会実施について
3 アスリートパスウェイの戦略的支援委託事業のコーチ育成・アンケートに

- ついて
4 選手選考基準に沿った強化と強化スケジュール案について
ウ)その他
1 全国の施設整備の情報
京都、福山、葛飾。銚田の小学校にリード壁ができる。
2 今後の大会の下見について
3 澤田氏の研究について
4 コーチングスタッフミーティング
兼強化委員会次回委員会の開催について
- #### 4-3 遭対常任委員会
- 2月26日(水) 参加14名
ア)AvSAR上級講習会の報告
2月14日(金)～16日(日) 土合山の家
参加者：15名(参加者 警察、陸自、ガイド、一般参加者、JMSCA遭対3名、栃木岳連2名、愛知岳連1名)
イ)減遭難活動について
・集計している事故件数を各県に展開しては如何か。
・モデルケースの山を決めて取り組んでは如何か。
・取組結果を見える化にするため一般登山者の遭難が多い山を抽出し、その中から更にコースの絞り込みを行う等。
・山開きの日に大阪府岳連で行っている様に登山届け提出の啓蒙活動を行っているは如何か。
・夏山リーダー養成講習会を通じて未組織登山者への教育を行う。
ウ)山岳遭難対策中央協議会第3回幹事会報告 2月18日(水)、文部科学省16階、3会議室、出席者10名
①山岳遭難セーフティーカード
夏用12万部、冬用8万部の計20万部を作成。
a. インバウンド対策について
英語・中国語・韓国語の3言語で見積を依頼。データのダウンロードも検討。
②令和2年度全国山岳遭難対策協議会について
「異文化を通して考える日本の減遭難」を目的とする。午前中は、例年どおり警察庁と消防庁に依頼。午後は、前回同様、村越先生にファシリテーターを依頼。
③その他
・新型コロナウイルスの関係で、各団体で対策等はどうか。

- #### 5. 会務・役員派遣(2月15日～3月4日)
- (1)日本勤労者山岳連盟第34回総会 2月15日(土) 於：府中コンチネンタルホテル府中 13時～ 八木原会長
(2)ジュニア普及情報交換会
2月15日(土) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長、古賀理事他
(3)令和元年度全国理事長会議
2月16日(日) 於：TKP渋谷カンファレンスセンター 八木原会長他
(4)氷雪技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会) 2月15日(土)～16日(日) 於：鳥取～大山 蛭田理事
(5)富士山利用者負担専門委員会
2月17日(月) 於：都道府県会館410号室 尾形専務理事
(6)山岳遭難対策中央協議会 第3回幹事会

寄贈図書

記念誌	日本山岳遺産基金	「10年の歩み」
	日本スポーツ芸術協会	「Sport Art 2020」
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.874
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2020 No.1020
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.723 202003
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.503 202003
	日本トレーディング指導者協会	JATI EXTRESS Vol.75
	(独法)日本スポーツ振興センター	「スポーツニュース」Vol.115,116「フェアプレイニュース」Vol.115,116
	日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」4・5月号
	(独法)日本スポーツ振興センター	「ゲートボールNavi」2019年度号
	中華民国山岳協會	中華山岳<雙月間> 275
	日本運動具新報社	スポーツ産業新報 第2282号、第2283号、第2284号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第633号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第470号
会報	(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」vol.48
	(公財)埼玉スポーツ協会	「スポーツ埼玉」vol.287
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」marzo2020
	日本太極拳連盟	「武術太極拳」No.366
	日本勤労者山岳連盟	登山時報5月号 No.542
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.236
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第437号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.96 NO.1081
	(公社)日本山岳会	「山」No.898 3月号
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第347号
	大阪府立体育会館	「エディオンアリーナ大阪」No.132

- 2月18日(火) 於：文部科学省16F、3会議室 町田理事
 (7)第2回スピードジャパンカップ
 2月22日(土) 於：昭島市・モリパークアウトドアビレッジ 亀山副会長、尾形専務理事、村岡理事他
 (8)上級登山リスクマネジメント指導者研修会 2月22日(土)～23日(日) 於：オリニック記念青少年総合センター 小野寺常務理事
 (9)日本山岳ガイド協会 役員改選委員会 2月25日(火) 於：ルノアール四谷3階 八木原会長

表紙のことば

平成30(2018)年4月号から表紙写真で知られざるシッキムの山々を紹介してきましたが、今月号からはカラコルムの山々を紹介していきます。まずは、余り知られていない東部カラコルムの山々から紹介します。

表紙写真は、リモI峰から撮ったK12(7,469m、左)とサルトロ・カンリ(7,742m)です。ピラフォンド氷河を挟んで対峙する東部カラコルムの2大巨峰は、どちらも東部カラコルムの盟主に相応しい堂々とした山容だ。このアングルの写真は、他には無い私の秘蔵作品です。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

不要不急の外出自粛要請が出ているなか不謹慎だが宮ヶ瀬湖方面にドライブに出かけた。道中桜は満開、山吹も咲き、木々も芽吹き始め春を感じた。当たり前だが季節は新型コロナウイルスに関係なくめぐってきている。イベントの中止、延期が続く異常事態であるが、密閉、密集、密着の3密を考慮した野外行動などが子供のストレス解消には適していると思うが、ここが我慢のしどころか。

(広報担当 水島彰治)

JMSCA 60周年募金協力者ご芳名
 (2020年3月31日現在、敬称略)
 10口：麻田正博、4口：山口定男
 (総額：394口 1,970,000円)
 創立60周年記念事業募金のご協力をお願いします。6,000円以上の募金の場合、税額控除証明書を発行いたします。
 みずほ銀行 渋谷支店 普通口座 3382501
 口座名：
 (公社)日本山岳・スポーツライミング協会
 郵便振替 口座記号番号 00110-5-546693
 加入者名：
 (公社)日本山岳・スポーツライミング協会

一般財団法人 日本トレイルランニング協会
 〒141-0031
 品川区西五反田6-3-23-205
 ☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第613号
 定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和2年4月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳 雑誌 岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

2020
5
May
No.875

新緑と残雪の山

【特集】新緑と残雪の山
 ★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!
 毎月15日発売 価格880円(+税)

5月号 発売中

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 Tシャツセット

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

2色から選べる!

「岳人」年間購読+岳人Tシャツセット

期間限定キャンペーン

岳人の年間購読を【新規お申し込み】または【ご継続】いただくと、「岳人Tシャツ」クーポンをセットでお届け。
 キャンペーン期間(お申し込み日)
 2019年10/15(火)～2020年10/14(水)
(2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります)

通常価格 12冊

~~10,560円(税込)~~
11,616円(税込)

年間購読 12冊+Tシャツ

9,680円(税込)
10,648円(税込)

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには発送も可能です。

年間購読のお申し込みはこちらから!>>>

<https://www.gakujin.jp/>

全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト

☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証を
かざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.com>



WEBからもお申込みいただけます